

無量義經十功德品第三（続き）

（29 頁 1 行～35 頁 8 行）

（7 月 25 日テキスト）

善男子、第八に是の經の不可思議の功德力とは、若し善男子、善女人、若しは仏の在世若しは滅度の後に、人あって能く是の經典を得たらん者は、敬信すること仏身を視たてまつるが如く等しくして異なることなからしめ、是の經を愛樂し、受持し読誦し書写し頂戴し、法の如く奉行し、戒、忍を堅固にし、兼ねて檀度を行じ、深く慈悲を發して、此の無上大乗無量義經を以って、広く人の為に説かん。

若し人先より來、都べて罪福あることを信ぜざる者には、是の經を以て之を示して、種種の方便を設け強いて化して信ぜしめん。經の威力を以っての故に、其の人の信心を發し忽然として回することを得ん。信心既に發して勇猛精進するが故に、能く此の經の威徳勢力を得て、得道、得果せん。

是の故に善男子、善女人、化を蒙る功德を以っての故に、男子、女人即ち是の身に於いて無生法忍を得、上地に至ることを得て、諸の菩薩と以って眷屬と為りて、速かに能く衆生を成就し、仏国土を淨め、久しからずして無上菩提を成ずることを得ん。

善男子、是れを是の經の第八の功德不思議の力と名づく。（29 頁 1 行～30 頁 1 行）

良き志を持つ者よ、第八にこの經の理解を超えた良き影響力とは、仏がこの世にあるときまたはこの世を去られた後に、もしも良き志を持つ男性または女性の中で、この經典に巡り会い、これを敬い、信賴し、實際の仏その人に対するように敬仰するならば、そのような人々は、この經に敬愛と悦びの念を感じ、それを受け入れ保ち、読んで暗誦し、書写し、大切にし、その教えを實踐し、自らの行いを律し、他者への寛容さに徹し、物惜しみせず他者と分かち合い、深い慈悲の心を起こして、この比類なき全ての者を悟りへと導く無量の意味を持つ經を、広く多くの人々の為に説くでしょう。

もし善悪の行いの結果を全く信じた事が無い人が居たとしても、彼らの巧みな心遣いとやり方によってこの經を示せば、その大きな影響力によって、そのような人でも納得するようになるでしょう。經の強い影響力は、人の心を目覚めさせ自ずと心の変化が経験できるようになるのです。今や、目覚めた信賴する心で、その人は不屈の努力でこの經典の大いなる影響力を得て大きな利益を得ることができ、道を悟ってその果実を得ることができるのです。

この理由により、良き志を持つ男女よ、そのような良き影響力のお陰で、男性も女性もそのままの身をもって、全てのものは本来生じることも無く滅することも無いことを悟り、仏道修行の最高の位に至り、諸々の菩薩の仲間となるのです。彼らは、早く巧みに全ての生きとし生けるものを成就へと導き、仏国土を清らかに満たし、遠からず最上の完全な悟りを得ることができるでしょう。

良き志を持つ者よ、これがこの經の第八の理解を超えた良き影響力というものです。

善男子、第九に是の經の不可思議の功德力とは、若し善男子、善女人、若しは仏の在世若しは滅度の後に、是の經を得ることあって歡喜踊躍し、未曾有なることを得て、受持し読誦し書写し供養し、広く衆人の為に是の經の義を分別し解説せん者は、即ち宿業の余罪重障、一時に滅尽することを得、便ち清淨なることを得て、大弁を速得し、次第に諸の波

羅蜜を莊嚴し、諸の三昧、首楞嚴三昧を獲、大総持門に入り、勤精進力を得て速かに上地に越ゆることを得、善能く分身散体して十方の国土に遍じ、一切二十五有の極苦の衆生を抜濟して悉く解脱せしめん。是の故に是の經に此の如きの力います。

善男子、是れを是の經の第九の功德不思議の力と名づく。(30 頁 2 行～30 頁 10 行)

良き志を持つ者よ、第九にこの經の理解を超えた良き影響力とは、仏がこの世にあるときまたはこの世を去られた後に、もしも良き志を持つ男性または女性の中で、この經典に巡り会うことができ、素晴らしくあり得ないものを得られたと踊りだす程喜んで、それを受け入れ保ち、読んで暗誦し、書写し、大切にし、その意義を多くの人に分かるように広く説く人がいたとしたら、その人は過去から積み重ねてきた行いの悪い影響力や作用に打ち勝ち、それらを取り除くことができるでしょう。そしてそのまま心清らかさを得、教えを説く雄弁さが身につく、行いや心構えの完成を順次体現し、様々な瞑想の境地やあらゆる迷いの心に打ち勝つ瞑想の境地を獲得し、偉大なる教えを悟る智慧の力を得、たゆまない努力する力を得、速やかに高度な悟りの段階を超えていき、あらゆる方面で遍くその存在が知られるようになり、迷いの世界すべての二十五の境涯で苦しみの極致にいる衆生を助けて悟りへと導くことができるようになるでしょう。これらすべてのことは、この經にそのような影響力があるからこそなのです。

良き志を持つ者よ、これがこの經の第九の理解を超えた良き影響力というものです。

善男子、第十に是の經の不可思議の功德力とは、若し善男子、善女人、若しは仏の在世若しは滅度の後に、若し是の經を得て大歡喜を發し、希有の心を生じ、既に自ら受持し誦誦し書写し供養し説の如く修行し、復能く広く在家出家の人を勧めて、受持し誦誦し書写し供養し解説し、法の如く修行せしめん。既に余人をして是の經を修行せしむる力の故に、得道、得果せんこと、皆是の善男子、善女人の慈心をもって勤ろに化する力に由るが故に、

是の善男子、善女人は即ち是の身に於いて便ち無量の諸の陀羅尼門を逮得せん。凡夫地に於いて、自然に初めの時に能く無量阿僧祇の弘誓大願を發し、深く能く一切衆生を救はんことを發し、大悲を成就し、広く能く衆の苦を抜き、厚く善根を集めて一切を饒益せん。而して法の沢を演べて洪に枯涸に潤おし、能く法の薬を以って諸の衆生に施し、一切を安樂し、漸見超登して法雲地に住せん。恩沢普く潤し慈被すること外なく、苦の衆生を撰して道跡に入らしめん。是の故に此の人は、久しからずして阿耨多羅三藐三菩提を成ずることを得ん。

善男子、是れを是の經の第十の功德不思議の力と名づく。(30 頁 11 行～31 頁 12 行)

良き志を持つ者よ、第十にこの經の理解を超えた良き影響力とは、仏がこの世にあるときまたはこの世を去られた後に、もしも良き志を持つ男性または女性の中で、この經典に巡り会うことができ、大いに歡び、あり得ないものを得られたと喜んで、それを受け入れ保ち、読んで暗誦し、書写し、大切にし、説かれている通りに実践し、多くの在家や出家の人々に勧めて、この經を受け入れ保ち、読んで暗誦し、書写し、大切にし、人に解り易く説き、説かれている通りに実践してもらったとしよう。そすれば、他の人にも、この經を実践してもらったというその良き影響力によって、修行を全うしその結果を得るでしょう。それは、全てのこの良き志をもつ男性または女性の真心の籠った思いやりの気持ちで一生懸命に分かってもらおうと努力した結果なのです。

この良き志をもつ男性または女性は、そのまま、ほどなくして数えきれないほどの教

えを理解する智慧の数々を獲得するでしょう。まだまだ普通の人間としての様々な欲望を持っている段階にはいるが、初めから自然に、数えきれないほどの無量の偉大なる決意と素晴らしい発心を起こすのです。彼らは心の奥底から何としても全ての衆生を救いたいという気持ちを起こし、大いなる思いやりの気持ちに溢れ、広く巧みに様々な人々を苦しみから解放し、全てのものを利する多くの善い行いを積み重ねるのです。教えの流れが乾いた土地を潤すように、それぞれの衆生に必要な教えという薬を与え、全てのものを健やかにし、少しずつ優れたものの見方を可能にし、法雲地（菩薩としての最高の境地）にまで到達させるでしょう。その全てを包み込むような溢れるような思いやりの気持ちは例外なく、あらゆる苦しんでいる生きとし生けるものを道へと導くのです。このようにして、これらの人々はほどなく阿耨多羅三藐三菩提（菩薩行を成就した最高の悟り）を成就するでしょう。

良き志を持つ者よ、これがこの経の第十の理解を超えた良き影響力というものです。

善男子、是の如き無上大乗無量義経は、極めて大威神の力ましまして、尊にして過上なし。能く諸の凡夫をして皆聖果を成じ、永く生死を離れて皆自在なることを得せしめたもう。是の故に是の経を無量義と名づく。

能く一切衆生をして、凡夫地に於いて諸の菩薩の無量の道牙を生起せしめ、功德の樹をして鬱茂扶蔬増長せしめたもう。是の故に此の経を不可思議の功德力と名づく。

時に大莊嚴菩薩摩訶薩及び八万の菩薩摩訶薩、声を同じうして仏に白して言さく、

世尊、仏の所説の如き甚深微妙無上大乗無量義経は、文理真正に、尊にして過上なし。三世の諸仏の共に守護したもう所、衆魔群道、得入することあることなく、一切の邪見生死に壊敗せられず。(32 頁 1 行～32 頁 9 行)

良き志を持つ者よ、このような全てのものを悟りへと導く比類なき無量義経は、極めて大きな優れた影響力を持っており、いくら大切に尊重してもし過ぎることはありません。まだ様々な欲望を持っている普通の人々に、最高の成果を達成することを可能にし、生死輪廻のサイクルから自由になる事を可能ならしめるのです。このような理由からこの経は無量義と言われるのです。

まだ欲望に囚われた全ての生きとし生けるものに、そのままの状態、無数の菩薩行の芽を発芽させ、その有益なる樹を成長茂らせ、広く高く成らしめるのです。だからこそ、この経は理解を超えた良き影響力を持っていると言われるのです。そのときに大莊嚴菩薩と八万の偉大なる菩薩達は、声を揃えて仏に向かって言いました。

世尊、仏が説かれたこの甚だしく奥深く言辞を超えたこの上ない全ての人を悟りへと導く無量義経は、その内容も道理も真実であり正しく、その価値は至上であり比類なく尊いものです。過去現在未来の諸々の仏の指導の下にあるものです。様々な迷いをもたらすものや真実から目を逸らせるような考え方の数々がつけ入る隙はありません。仏の悟りから遠ざける全ての間違った考え方や、それによって迷いの世界で彷徨い挫折してしまうようなこともありません。

是の故に此の経は乃ち是の如き十功德不思議の力います。大に無量の一切衆生を饒益し、一切の諸の菩薩摩訶薩をして各無量義三昧を得、或は百千陀羅尼門を得せしめ、或は菩薩の諸地、諸忍を得、或は縁覚、羅漢の四道果の証を得せしめたもう。

世尊慈愍して快く我等が為に是の如き法を説いて、我をして大に法利を獲せしめたもう。甚だ為れ奇特に未曾有也。世尊の慈恩実に報ずべきこと難し。(32 頁 9 行～33 頁 3 行)

だからこそ、この経はこのような十の理解を超えた良き影響力を持ち、数え切れないほどの全ての衆生に大いに利益をもたらすのです。そして、多くの偉大なる菩薩達それぞれに無数の意味を持ち得る集中力と数多くの教えを保持する能力を得させるのです。あるいは、さまざまな菩薩の境地や閃きや一人で縁起を悟る道や、阿羅漢にいたる四つの境地を知ることができるのです。

世尊は慈しみあわれみ快く私たちのためにこのような法を説いて、私たちに法の利益を受けさせてくださいました。それは大変珍しく今まで一度もなかったことです。世尊の慈しみ深い恩に報いることは難しいのです。

此の語を作し已りし、爾の時に三千大千世界、六種に震動し、上空の中より復種種の天華、天優鉢羅華、鉢曇摩華、拘物頭華、分陀利華を雨らし、又無数種種の天香、天衣、天瓔珞、天無価の宝を雨らして、上空の中より回転して来下し、仏及び諸の菩薩、声聞、大衆に供養す。天厨、天鉢器に天百味充滿盈溢せる、色を見香を聞くに自然に飽足す。天幢、天幡、天軒蓋、天妙樂具、処処に安置し、天の伎樂を作して仏を歌歎す。

又復六種に東方恆河沙等の諸仏の世界を震動す。亦天華、天香、天衣、天瓔珞、天無価の宝を雨らし、天厨の天鉢器には天の百味、色を見香を聞くに自然に飽足す。天幢、天幡、天軒蓋、天妙樂具、処処に安置し、天の伎樂を作して彼の仏及び諸の菩薩、声聞、大衆を歌歎す。南西北方四維上下も亦復是の如し。(33頁3行～33頁12行)

この言葉を言い終わると、そのときに三千大千世界が六種に振動し、上空から種々の天の華々、青、深紅、黄、白の蓮華を雨のように降り、また数えきれないほどたくさんの種類の天の香、天の衣、天の首飾り、価値のつけられないような天の宝が雨のように上空より降り旋回して落ちてきて、仏や諸々の菩薩、声聞、多くの人々に捧げられたのです。天の入れ物や天の鉢に何百もの天の食べ物が盛られ、その色を見て香りをかぐだけで自然に満たされるほどでした。天の旗、天ののぼり、天蓋、天の妙なる楽器があちらこちらに置かれ、天の音曲が奏でられ、仏を歌でほめたたえました。

そして東方のガンジス川の砂の数ほどある仏の世界を六種に振動させました。また天の華、香、衣、首飾り、値をはかることができないほど貴重な宝が雨のように降り、天の入れ物や天の入れ物や天の鉢に盛られた何百もの御馳走の数々は見たり香りを嗅ぐだけで自然に満足するものでした。天の旗、天ののぼり、天蓋、天の妙なる楽器があちらこちらに置かれ、天の音曲が奏でられ、そこにいらっしゃる仏や諸々の菩薩、声聞、多くの人々を歌でほめたたえました。南西北方とそれぞれの間と天地上下もまたこのようでした。

爾の時に仏、大莊嚴菩薩摩訶薩及び八万の菩薩摩訶薩に告げて言わく、汝等当に此の経に於いて応に深く敬心を起し法の如く修行し、広く一切を化して勤心に流布すべし。常に当に懇懃に昼夜守護して、諸の衆生をして各法利を獲せしむべし、汝等真に是れ大慈大悲なり。以って神通の願力を立てて、是の経を守護して疑滞せしむることなかれ。汝、当来世に於いて必ず広く閻浮提に行ぜしめ、一切衆生をして見聞し誦誦し書写し供養することを得せしめよ。是れを以っての故に、亦疾く汝等をして速かに阿耨多羅三藐三菩提を得せしめん。

是の時に大莊嚴菩薩摩訶薩、八万の菩薩摩訶薩と即ち座より起って仏所に来詣して、頭面に足を礼し遶ること百千?して、即ち前んで胡跪し俱共に声を同じうして仏に白して言さ

く、世尊、我等快く世尊の慈愍を蒙りぬ。我等が為に是の甚深微妙無上大乗無量義を説きたもう。敬んで仏勅を受けて、如来の滅後に於いて当に広く是の經典を流布せしめ、普く一切をして受持し読誦し書写し供養せしむべし、唯願わくは憂慮を垂れたもうことなかれ。(34頁1行～35頁1行)

そのときに仏は、大莊嚴菩薩と八万の偉大な菩薩達に言われた。この経に対しては、お前たちは皆、深く心からの尊敬の念を表し、説かれた通りに実践し、全ての生きとし生けるものが目覚めるように決意をもって一人でも多くの人に説き広めなさい。昼夜たがわず一生懸命にその教えを保ち、全ての生きとし生けるものがその法から得るものがあるように努力しなさい。それこそが、本当の意味での大いなる思いやりと共感力なのです。この経の教えを保つ為の並外れた強い意志の力を育み、疑惑や躊躇する心が決して起こらないようにしなさい。必ずや、この教えが将来に渡って広く実践されるようにし、全ての生きとし生けるものがそれに巡り会い、聴き、暗誦し、唱え、記録し称えるのを見届けなさい。これはまた皆を最高の悟りへと速やかに到達せしめるのです。

そのときに大莊嚴菩薩と八万の偉大な菩薩達はその場から直ぐに立ち上がり、仏の所へ恭しく近づき、仏の足元に礼をして、仏の周りを何度も巡った後、仏の前で改まって片膝だって向き直り、声を揃えて以下の様に申し述べました。世尊よ、我らは皆世尊の慈しみ哀れむ心を喜んでお受け致します。貴方は、この奥深く、計り知れず至上の全てのものを悟りへと導く無量義経を私達全てに平等にお説きになりました。私達は、敬意をもって仏の命をお受け致します。仏の滅後において、我らこそがこの経を広く説き、全ての生きとし生けるものが、それを受け入れ、信賴し、暗誦し、唱え、記録し称える気持ちに成るように全力を尽くします。どうか世尊よ、ご心配なされませぬようお願い致します。

我等当に願力を以って、普く一切衆生をして此の経を見聞し読誦し書写し供養することを得、是の経の威神の福を得せしむべし。

爾の時に仏讚めて言わく、善哉善哉、諸の善男子、汝等今者真に是れ仏子なり。弘き大慈大悲をもって深く能く苦を抜き厄を救う者なり。一切衆生の良福田なり。広く一切の為に大良導師と作り。一切衆生の大依止処なり。一切衆生の大施主なり。常に法利を以って広く一切に施せと。

爾の時に大会皆大に歡喜して、仏の為に礼を作し、受持して去りにき。

(35頁1行～35頁8行)

私達の強い決意によって、全ての所の全ての生きとし生けるものが、この経に巡り会い、聴き、暗誦し、唱え、記録し敬い、そして、その教えの最高の力が得られるように必ず見届けます。

その時に、仏はそれを称えて次の様に言われた。良く言った、良き志をもつものよ。良くぞ言った。今こそ、お前たちは、本当の意味での仏の後継者である。お前たちは偉大な思いやりと共感力をもって、必ずや苦しみを取り除き、辛さを癒すでしょう。お前たちは全ての生きとし生けるものにとっての大いなる心の拠り所であり、沢山の人を利する優れた道案内であり、すべての生きとし生けるものの大いなる支えとなり、全ての生きとし生けるものの恩人になるであろう。常に、法の力を活かして全てのものに遍く尽くすように！

その時に、そこに集まっていたすべてのものは大いに歡び、教えを理解して保持して、仏に礼を尽くして、その場を去りました。